

模擬 G7 サミット 2020 を終えて

テーマ：Online Defamation インターネット上の誹謗中傷についての法改正を考える

日時・場所：9月6日9:00~17:00 オンライン

参加校：神戸大学附属中等教育学校、渋谷教育学園渋谷中学高等学校、渋谷教育学園幕張高等学校、洗足学園中学高等学校、創価高等学校、東京学芸大学附属高等学校、栃木県立宇都宮高等学校、福井県立藤島高等学校、富士見中学高等学校、Guiyang No.1 High School (China)、Kang Chiao International School (China)、St. Dominic Savio Catholic High School (U.S.A.)、Taipei Wego Private High School (Taiwan) 計13校

運営委員：藤野こころ、谷口美幸、貴田悠斗（以上3名 渋谷教育学園渋谷高等学校2年）

ファシリテーター：石井誠子、梅崎理彩、金口英里奈、川野芽衣、清水優里、菅生真歩、隅佑香、三宅熙一郎（以上8名 渋谷教育学園渋谷高等学校）

今年の模擬 G7 サミット (Model G7 summit 2020) は、5年間の歴史の中で初のオンライン開催となりました。海外からの参加者も含めた44名の中高生がインターネット上の誹謗中傷について意見を交わしました。

まず、若者の政治参画を推進する活動を行っている高校生の車世栄さんをキーノートスピーカーとして迎え、若者と政治に関してお話をいただきました。MG7は若者の社会参画を目的に始められたので、改めてこの会の意義を感じることができました。次に運営委員が現状の問題についてのプレゼンテーションを行いました。その中で、インターネット上の誹謗中傷に立ち向かった芸能人として話題になっている春名風花さん（舞台俳優、声優）からのビデオメッセージを紹介させていただきました。今の法律や社会が被害者に優しくなく、この問題の深刻さが非常によくわかりました。プレゼンの最後に、クイズを通して、どの行為が違法で、どの行為が合法かを確認しました。参加者の皆さんが熱心に聞いていただいていることが、画面越しにでもわかりました。

その後はグループディスカッションに入り、「実現可能で効果的、そして社会に受け入れられるようなアクションプランを高校生独自の視点から考える」という課題に取り組んでいただきました。今回は英語で話し合うグループが6つ、日本語で話し合うグループが2つでした。発表は日本語で話し合ったグループも含め、英語で行いました。誹謗中傷の被害を受けた際の保険や小学校からのSNS教育、誹謗中傷か否かの判断を精神科医に託すなど、それぞれのグループが様々な角度からこの問題を深く考察していて、どのグループにも賞をあげたい気持ちになりました。質疑応答では鋭い質問が飛び交い、皆さんがとても真剣にこの問題に立ち向かっていることが改めて感じられました。



閉会式では、J7サミット2015日本代表として独メルケル首相と意見交換した足立愛音さん（東京大学法学部4年）からアドバイスをいただきました。参加してくれた中高生の皆さん、ゲストの方々、後援して下さった日本ユニセフ協会の皆様のおかげでこの会議を成功させることができました。心より感謝しております。

（文責 藤野こころ）

